

昭和興産

昭和興産は中期3カ年計画で重点テーマの1つに掲げるアジアの事業拡大に向けた取り組みを加速する。このほどインドネシアに現地法人を開設した。

「今年秋頃には貿易ライセンズを取得できる(田淵明雄社長)見通し。サニタリー・生活、自動車、インフラ関連などを中心に日本、中国、タイから輸入した商材を主に現地の日系企業に販売することを主力業務とし、2018年度に10億円の売上高を目指す。

昭和興産は合成樹脂関連、化学品関連、情報電材関連、産業資材関連の各種商材を取り扱う。13年度(13年12月期)には、「躍進800計画」(創業70周年からの新たな挑戦)をスローガンとする3カ年の中期経営計画をスタートした。最終年度の15年度に国内事業750億円、海外事業50億円の達成にチャレ

## インドネシアに現法開設

ンジする。

初年度に当たる13年度の業績は、「合成樹脂の輸入商材、太陽光発電関連のアルミニウム押出材料が好調だった」ことなどより単体売上高が64.9億4900万円と前期を1%上回り、営業利益は16%増の9億8600万円とピークに近いレベルとなった。今期は売上高69.2億7500万円、営業利益は初の10億円達成を目指す。

海外事業についてはタイの現地法人が引き続き攻調で、13年度の売上高は現地通貨ベースで過去最高を更新した。日本企業と現地OEM先をマッチングさせるビジネスも進展している。中国は苦戦しているものの、14年度はウレタン関連商材の回復が見込まれる状況にある。13年度の海外売上高は39億円。14年度は47億円を見込んでいる。